

訪問看護四国中央の看護師皆様へ

寒さが厳しくなりました。看護師皆様は、地域の方々に「笑いと幸せ」を届けに、ご活躍されていることと思います。

生前、父が大変お世話になりました。家族ともどもに「温かな、ぬくもりのある看護」を頂き本当にありがとうございました。

父の49日が終わり、少しずつ心の整理が付き始め、生前から亡くなってからも頂く看護へのお礼が言いたく、投稿させて頂きました。

父は、高齢で、1人暮らし。牡丹作りに野菜作りが楽しみで、のんびり暮らすことが、一番の幸せでした。ふりかかった癌との闘病・・・癌の痛みに加え、抗がん剤に朝、夕のインシュリン注射、生きることに頑張る父の姿を傍で見ると痛ましい限りでした。その闘病の気持ちを温かく支えて下さったのが、訪問看護師の方々でした。

朝、夕のインシュリンをしなければご飯が食べられない父の苦悩を、笑顔で楽しみに変えて下さったのが、看護師さん皆様でした。「今日は、〇〇看護師さんだったわや。よいよ、優しい。」と嬉しそうに話していた父の笑顔がつい、この頃のように浮かびます。家族が出来ない、朝と夕のインシュリンをして頂き安心して仕事が出来ました。

そして、いつも、適切な状態観察と状態変化をしっかりとつかみ、家族に電話連絡して相談して下さい、安心と安全な看護を頂きました。

最期には、これで最後の外泊になると思って連れて帰った折には、すぐに駆けつけてきて下さり、父の好きな入浴剤でほっこり温まったお風呂介助でした。父が「ああ、気持ちええ。」と笑ったあの顔。訪問看護師さんと一緒に満足できた時間は、忘れることが出来ない大事な1コマでした。

父が望む在宅で、「父の生き様を支えて下さり」「父らしく生きることを支えて下さり」、ありがとうございました。そして、亡くなった後の家族にも、声をかけて頂き、ゆっくりと父が逝ったことを受け入れるように、そして心の中で生きているように思わせて頂いたことに感謝の念で堪えません。

本当に「ありがとうございました。」とお礼を言いたく、そして、きっと父も「わしは、落ち着いてきたから、姉ちゃんたちにお礼を言ってくれよ。」と空から言っているようで、お手紙をさせて頂きました。

この地域で、家族を守って下さる訪問看護ステーション四国中央の訪問看護師がおられると思うと安心感があります。

今後も「笑いと「幸せ」を届ける訪問看護師さん皆様のご活躍を心より祈っております。

寒さがだんだんと厳しくなります。ご身体にはくれぐれご自愛下さい。